



県内の大学等高等教育機関や行政機関、企業等が、それぞれの知的資源を活用し、各大学等の充実や発展を目的とした活動、市民生活の質向上と地域発展、そして「学都仙台」のイメージアップを。この目的の下に平成18年、「学都仙台コンソーシアム」は発足しました。



広報部会事務局 川村 伊久子さん
(東北大学教育・学生支援部)

他大学の授業科目を履修し、取得した単位が在籍する大学の単位として認められる『単位互換ネットワーク』や、災害復興を念頭に置いた人材育成教育等を目的とした『復興大学』、一般の方へ大学等の知を提供する『サテライトキャンパス公開講座』など、様々な取り組みを行っていますが、それでも「どんな組織なの」と、？マークが浮かんだままの人も多いかと思います。そうした方々、特に若い世代に向けて積極的に情報を発信して、もっと理解を深めていただこうと働きかけているのが、学生の皆さんによる『広報サポートスタッフ』です。

主な活動は『G.S.C』というフリーペーパー制作で、学生が自分の目線で「学都仙台コンソーシアム」を紹介。より多くの方に、取り組みなどを伝えてもらっています。とはいえ、参加しているメンバーも初めは、どんな組織がよく知らない学生がほとんどで、活動を進める中で徐々に理解を深めていく、というケースが大半です。

一緒に仙台を盛り上げていきたい、他大学の学生と交流してみたい。そんな方はぜひ一度ご連絡ください。興味はあるけど、二の足を踏んでしまう人もいるかもしれませんが、まずは“とりあえず”という意識で構いません。何かをしたい思いやプランがあるのなら、とりあえず行動してみる、とりあえず誰

かに話してみる。始まりは、そうした気軽な感覚で十分。うずうずした気持ちを、自分の中だけに抱えているのはもったいないことです。

ふと、周りを見渡してみてください。在籍する大学に、自分を取り巻く社会に、様々な入口があることに気づくことでしょう。「学都仙台コンソーシアム」もそのひとつ。自分の世界を広げるために、上手に利用していただけたら嬉しいですね。

(川村さん談)

以前からフリーペーパー制作に興味はあったものの、自分一人では心細く、手順も分からない…。そんな時、目に飛び込んできたのが『広報サポートスタッフ』の募集案内でした。他大学の人も参加するというので、話が合わなかったらどうしよう、活動のため



小出 一恵さん (宮城教育大学4年)

めに時間の都合をつけられるだろうか。参加前こそ様々な不安がありましたが、いざ門を叩いてみるととても居心地が良く、肩すかしのよう感覚すら覚えました。それほど、輪の中にすっと溶け込むことができる雰囲気がありました。

そして、在籍する大学にいただけでは得られない多くの経験もできました。例えば、取材関係で様々な大学の教授に集まっていた際には、私が通う大学とはまた違った授業スタイルや知識の幅が新鮮に感じましたし、取材という名目で他大学のキャンパスに伺うことも、すべてが貴重で刺激的な機会になっています。こうした経験に対して、『広報サポートスタッフ』になって良かった

と改めて思います。

私は、他のメンバーと比べてしっかりした性格とは言えません。作業分担や情報の取りまとめも人任せだった節があり、足を引っ張ってしまうのでは、と思ったこともありましたが、でも、開き直って「迷惑をかけるかもしれないけどごめんね」と伝えることで、ずっと気持ちが晴れました。その際に思ったのは、何かを始めたい時、悩みがある時は、誰かに話すのが一番だということ。何気ない会話の「何かをしたいんだけど」という一言から、新しい体験が始まることもあると思いますし、どうしても一歩を踏み出せない時は、誰かの力を借りてみるのもひとつの手段。今ではそう感じています。

(小出さん談)

大学1年の時に東日本大震災を経験しました。その際に参加したボランティアをきっかけに、様々な活動に携わってきたせいか、気がつく新しいチャレンジへの抵抗や不安はなくなっていました。ですから、在籍する大学のゼミの先生から『広報サポートスタッフ』をやってみないかと声をかけられた際も、ひとつ返事。学生が仙台を盛り上げるなんて面白そうと感じて、興味本位で参加しました。



安彦 樹里さん (東北学院大学3年)

『広報サポートスタッフ』はその年々でメンバーの入れ替わりが多く、まったくの新体制でスタートすると、ノウハウがありません。通常のケースであれば、前任の担当者から何かしらの引き継ぎがありそうですが、私たちの代ではそれもなく、ゼロからのスタート。取材するネタの選定から、デザインや取材班の作業分担、アポイントメントまで、手

探り状態での発行はとにかく大変でしたが、得ることも多くありました。私たちが制作した『G.S.C』Vol.11では、様々な大学の学祭を取り上げましたが、気兼ねなく様々な大学に伺い、取材ができるのは『広報サポートスタッフ』ならではの、普段なら、なかなか足を踏み入れにくい他大学の様子を見られることも、ひとつの特権かもしれません。

最初の一步を踏み出すのは勇気がいるかもしれませんが、当人の思いとは裏腹に、受け入れてくれる側はみんな歓迎してくれることが多いと思います。また、一步を踏み出してしまえば、次からハードルはどんどん低くなることも、自分のこれまでの経験を通して分かりました。『広報サポートスタッフ』も新しいメンバーを募集していますので、興味がある方は、同じ学生という立場で一緒に仙台を盛り上げてみませんか。

(安彦さん談)

(取材日：2013/12/24)



学都仙台コンソーシアム

<http://www.gakuto-sendai.jp/>

事務局

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3

仙台市市民活動サポートセンター (日専連ビープ) 内
窓口対応時間：毎週月～土曜日 10:00～17:00(昼休み 12:00～13:00)

※祝日・サポートセンター休館日を除く

TEL/022-263-8851 FAX/022-263-8852